

メキシコにおけるコミュニティと共創する芸術創造に関する研究

A STUDY OF ARTS THAT CO-CREATED WITH A COMMUNITY IN MEXICO

.....
谷口 文保

芸術工学部アート・クラフト学科 准教授

Fumiyasu TANIGUCHI

Department of Arts and Crafts, School of Arts and Design, Associate Professor
.....

要旨

筆者は2015年8月3日から同年10月5日までメキシコに滞在し、ベラクルス州ハラパにあるベラクルス州立大学の客員教授として研究活動を展開した。

研究テーマは、「メキシコにおけるコミュニティと共創する芸術創造の研究」であった。ハラパでは、「コラボ・ショール」プロジェクトや小学校でのアートワークショップを实践した。また、「グアダルルーベを探せ」プロジェクトの調査を行った。メキシコシティでは、「ソーシャル・ランドスケープ基金」や壁画文化に関する調査を行った。イberoアメリカーナ大学では3回講義を行った。

今回の研究を通してたくさんの人々に会うことができた。本研究が日本とメキシコの相互理解に役立ち、交流促進の一助となることを願う。

Summary

I studied in Mexico from August 3, 2015 to same year October 5. During a stay, I was visiting professor of University of Veracruz in Xalapa.

A study subject was "A study of arts that co-created with a community in Mexico". I practiced "collaboration shawl" project and an art workshop at Xalapa. And I investigated about "Wanted Guadalupe" project. In Mexico City, I investigated about "Social landscape Foundation" and wall painting culture. And I lectured 3 times at Ibero-American University.

I could meet a lot of people in Mexico. I wish that this study is useful for mutual understanding in Japan and Mexico.

1. はじめに

筆者は神戸芸術工科大学海外研究員派遣制度に基づいて、平成27年8月から同年10月にかけて、メキシコに滞在し、さまざまな研究活動を展開した。

2. 研究活動の概要

期間：平成27年8月3日～平成27年10月5日

国：メキシコ

(ベラクルス州ハラパおよびメキシコシティ)

所属：ベラクルス州立大学 造形美術研究所

役職：客員教授

研究テーマ：メキシコにおけるコミュニティと共創する芸術創造に関する研究

主な研究活動：アートプロジェクト「コラボ・ショール」の企画運営。大学や文化施設での講演。小学校におけるアートワークショップの企画運営。「ソーシャル・ランドスケープ基金」の調査。メキシコの壁画文化に関する調査。「グアダルーペを探せ」プロジェクトの調査。

3. 研究の内容

3-1. アートプロジェクト「コラボ・ショール」の企画運営

「コラボ・ショール」は、神戸芸術工科大学において、ばんばまさえ教授(ファッションデザイン学科)、小越将吾実習助手(元・ビジュアルデザイン学科)と取り組んでいる、障害者福祉やコミュニティをテーマとするアートプロジェクトである。本研究は、このアートプロジェクトが、言語や文化の違うメキシコにおいても有効かどうかを検証することを目的に、ベラクルス州立大学造形美術研究所を拠点に、同大学周辺地域で実施した実験である(写真1～7)。

まず、同大学芸術学部で彫刻を学ぶ学生に参加を呼びかけ、「コラボ・ショール」について説明し、家族や友人との共同制作を提案した。後日、完成した画像データを筆者に提出してもらい、専門業者に依頼して布に印刷し、「コラボ・ショール」が完成した。筆者は、



(写真1) 「ベラクルス州立大学造形美術研究所」



(写真2) 「参加者への説明」

参加学生全員にインタビューを実施し、参加者同士の交流や共同制作のプロセスについて詳しく聞き取った。その結果、メキシコにおいても日本で実施した時と同様、共同制作を通して参加者同士の交流が実現し、相互理解が深まることが確認できた。また、制作を通して地域の再発見が起こっていることも分かった。

2か月間で参加者総数35名、19作品が完成し、10月1日から10月2日にかけてベラクルス州立大学造形美術研究所ギャラリーにて展覧会を開催した。10月1日には研究発表会を開催し、プロジェクト参加者や大学関係者、芸術関係者など約60名の聴衆に向けてプレゼンテーションを行い、本プロジェクトの成果と意義を説明した¹⁾。

3-2. 大学や文化施設での講演

イベロアメリカーナ大学(メキシコシティ)で3回



(写真3) 「印刷業者との打ち合わせ」



(写真6) 「研究発表会に集まった参加者や地域の人々」



(写真4) 「作品の完成」



(写真7) 「研究発表会の様子」

アートの潮流について、大学院生や教員とディスカッションを行った(写真8)。

9月10日に、ベラクルス州立彫刻公園において、「日本人芸術家3名による公開シンポジウム」が開催され、矢作隆一氏(ベラクルス州立大学造形美術研究



(写真5) 「展覧会の開催」

講演を行った。9月1日にビジュアルデザイン学科で、9月8日にファッションデザイン学科で、「コラボ・シヨール」について紹介した。9月7日には大学院で、「アートプロジェクト」について講演し、現代日本の



(写真8) 「イペロアメリカナ大学での講義」

所研究員)、坂本太郎氏(福井大学教育学部准教授)とともにパネリストとして登壇した(写真9)。



(写真9)「ベラクルス州立彫刻公園でのシンポジウム」

3-3 小学校におけるアートワークショップの企画運営

9月24日に、ハラパ市立ファン・エスクッティア小学校において、アートワークショップ「校庭の木を想像し、創造する」を実施した。

まず先生方と相談し、授業との繋がりを考えてテーマをコミュニティとエコロジーとした。先生方から、以前校庭にレモンの木があったが、校庭に屋根をかけるために伐採されたことを聞いた。その木を想像し、一人一人が大きな葉っぱを描き、それを校庭の壁に貼り付け、一本の木の壁画に仕上げるプログラムを提案した。5、6年生約50名が参加した(写真10~12)。



(写真10)「葉っぱの制作」



(写真11)「作品の完成」



(写真12)「アートワークショップの参加者」

3-4 「ソーシャル・ランドスケープ基金」の調査

「ソーシャル・ランドスケープ基金」は、メキシコの深刻な社会的課題とアートやデザインをつなぐ活動を行っているグループである。日本人芸術家はぎのみほ氏と日系メキシコ人建築家タロウ・ソリジャ氏、メキシコ人キュレーターのマリアナ・モラレス氏、日本人画家の馬場菜津美氏を中心に、老人ホームや児童養護施設での定期的なアートワークショップや美術館見学プログラム、ラジオ番組制作など、多様な活動を展開している²⁾。

筆者は8月25日から9月6日にかけて、定例会議、児童養護施設でのワークショップ、「女性の家」コンサート、ラジオ番組の収録などを見学し、メンバーへのインタビューを実施した。



(写真 13) 「ソーシャル・ランドスケープ基金のメンバー」



(写真 14) 「定例会議の様子」



(写真 15) 「児童養護施設での活動に参加した筆者」

3-5 メキシコの壁画文化に関する調査

1920年代から開始されたメキシコ壁画運動は、20世紀芸術に大きな影響を与えた芸術運動である。同時に、古代ピラミッドの壁画を原点とするメキシコのアイデンティティの再構築を目指す社会運動でもあった。現在も街中や公共施設に描かれた当時の壁画を確

認することができる。



(写真 16) 「ポリフォルム・シケイロス」



(写真 17) 「公園に描かれた現代の壁画」

筆者はメキシコ滞在中、ダビッド・アルファロ・シケイロスやディエゴ・リベラといった巨匠たちの作品を見学するとともに、その原点となったテオティワカン遺跡の壁画や、現代の若手アーティスト達が公園や一般住宅の壁に描いた壁画を多数見学した。

3-6 「グアダルーペを探せ」プロジェクトの調査

「グアダルーペを探せ」は、メキシコ在住の日本人アーティスト矢作隆一氏が展開するアートプロジェクトである。グアダルーペは、メキシコでもっとも信仰されている女神の名前である。アステカの神とキリスト教が習合して生まれたグアダルーペ信仰は、複雑なメキシコの歴史と文化の象徴である。

矢作氏は、メキシコにグアダルーペという名前の人が多いことを知り、グアダルーペという名前の人物を

探して、その肖像写真を撮影するというプロジェクトをメキシコ各地で継続的に展開している。

8月14日から8月16日にかけて、テクサココ美術館やテクサココ市街地で実施されたプロジェクトに同行し、その制作プロセスを見学した(写真16・17)。



(写真18) 「プロジェクトの説明をする矢作隆一氏」

4. まとめ

今回の研究活動を通して、多くの人々と出会うことができた。美術家、写真家、研究者、学生、教師、調理師、音楽家、会社員、小学生。メキシコ人、日系メキシコ人、日本人。彼らとふれあい、語り合う中で、メキシコの芸術文化の深さと豊かさを実感することができた。同時に、その背景にあるこの国の複雑な歴史や社会の姿が見えてきた。日本と異なるその関係や構造を捉えることが今後の課題である。

また、研究を進める中で、メキシコと日本の交流の歴史を学び、それが近年飛躍的に深まりつつあることを知った。本研究で出会った方々との人的ネットワークをさらに育み、日墨交流の促進につなげていきたいと考えている。

謝辞

ベラクルス州立大学造形美術研究所ハビエル・コサル・アングロ所長、矢作隆一研究員、ソーシャル・ランドスケープ基金はぎのみほ氏、タロウ・ソリジャ氏、馬場菜津美氏、イベロアメリカーナ大学玉川絵理教授、国際交流基金

メキシコ日本文化センター洲崎勝所長、ルシア・シロネン・テジェス・ハコメ氏、相原修氏など、本研究にご協力くださいました皆様に深く感謝申し上げます。

注

1)メキシコで制作されたコラボ・ショールは、筆者が日本に持ち帰り、「企画展 コラボ・ショール 室津を身にまとう2016」(2016年2月16日~3月13日、たつの市立室津海駅館、たつの市立室津民俗館)において展示し、その写真をeメールでメキシコの参加者に送付した。

2)写真13、15はソーシャル・ランドスケープ基金の撮影。その他の写真は筆者撮影。

参考文献

谷口文保、「メキシコにおけるアートと社会の共創に関する調査—壁画、ソーシャルランドスケープ基金、「グアダルーペを探せ」—」、『環境芸術学会第16回大会研究発表概要集』、2015

谷口文保、「芸術家と地域社会の共創に関する研究—ソーシャル・ランドスケープ基金の活動から—」、『文化経済学会<日本>年次大会 予稿集:2016』、2016

谷口文保・ばんばまさえ・小越将吾、「障害者福祉施設と大学の連携による地域に共創を誘発するアートプロジェクトの研究—コラボ・ショール室津を身にまとう—」、神戸芸術工科大学紀要『芸術工学』、2015